



スクラム



登録医検索システムが導入されました

このたび「登録医検索システム」を、地域連携室前に設置しました。

登録医検索システムは、タッチパネル式（画面に触れる）の操作で、患者さんが自宅近くの「かかりつけ医」を検索することができ、患者さんにその画面を印刷し、持ち帰っていただくことができるシステムです。登録医の先生方独自の印刷レイアウトを当院に提供していただければ、印刷時に当院定型と独自レイアウトのものが合わせて印刷（両面）され、患者さんに持ち帰っていただくことができます。

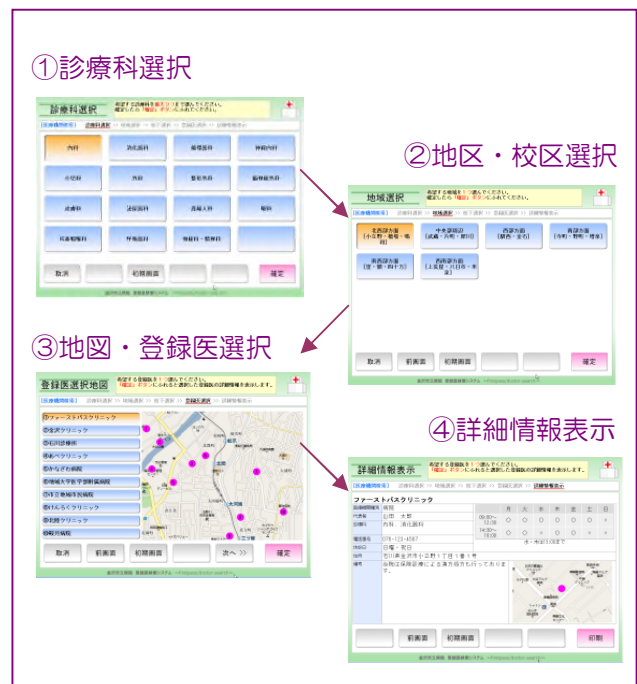


これまでに登録医の先生方には、独自印刷レイアウトのご提供をいただくなど、システム構築にご協力をいただき、ありがとうございました。去る5月25日（月）よりシステムは稼動しており、既に多数の患者さん・市民の皆様にご利用され、両面印刷のものがわかりやすいと好評です。独自印刷レイアウトの追加・修正など、随時受け付けております。是非、ご利用ください。

〔独自レイアウト例〕



〔画面イメージ〕



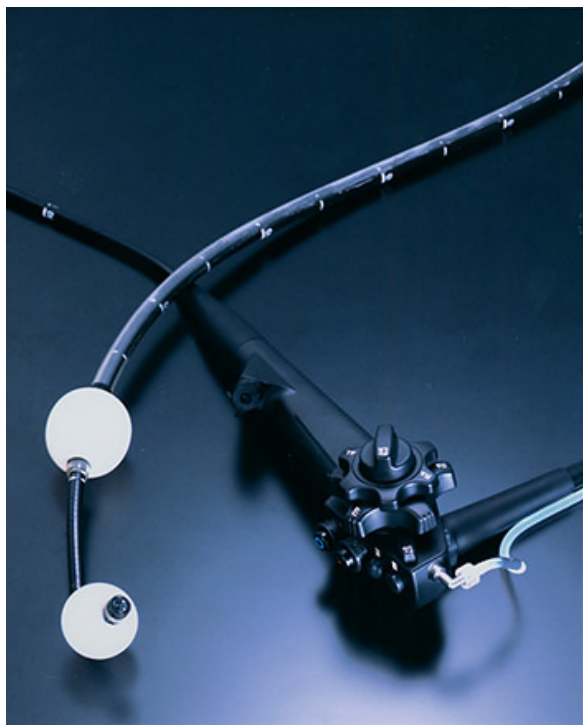


小腸を診る～ダブルバルーン内視鏡の活用

当院では2007年12月にカプセル内視鏡を導入し、これまでに57人の患者さんに検査を行ってきました。得られた実感は、「小腸には存外に病気が沢山ある」ということです。悪性リンパ腫2例（4%）、活動性出血例12例（22%）、潰瘍・びらん26例（47%）など、今まで私たちはこの曲がりくねった6～8mの小腸をみていなかっただけなのかもしれません。

カプセル内視鏡は、長さ26mm、直径11mm、重さ3.45gの小型ビデオカメラを内蔵したカプセルを飲み込むだけで小腸疾患の診断ができる検査システムです。カプセルは蠕動運動によって小腸を移動し、画像データは無線送信され、データレコーダに記録されます。患者さんの検査時の苦痛もほとんどないのが最大のメリットです。

しかし、カプセル内視鏡では見えているのに手が届かない・・・すなわち、出血しているのに止血できない、腫瘍があるのに生検できない、などの悩みを抱えていました。そこで私たちは、この度更に『ダブルバルーン内視鏡』を導入しました。スコープ先端とオーバチューブ先端それぞれにバルーンを装着することにより、小腸をアコーディオンのよ



うにたぐり寄せ縮めることができます。以前のpush式小腸内視鏡ではスコープ挿入に伴って小腸が伸びてしまうため1～2m程度しか挿入することができませんでしたが、このスコープでは尺取り虫のように進んで小腸深部に挿入していくことができます。

カプセル内視鏡によるスクリーニング、ダブルバルーン内視鏡による精密検査や治療。この2つの補完しあう検査手段により暗黒の臓器と呼ばれてきた小腸を検査する体制が整えられました。これからも小腸を診ていきます。



消化器内科長
辻 宏和



発熱外来を経験して

平成21年4月28日、海外での新型インフルエンザ発生があり、保健所から要請を受け、当院に発熱外来が設置されました。取り急ぎでの開設であり、当初は厚労省からの情報を得ながら、対応マニュアルを何度となく改訂し診療にあたってきました。



地域連携室
坂本 和美

発熱外来入口



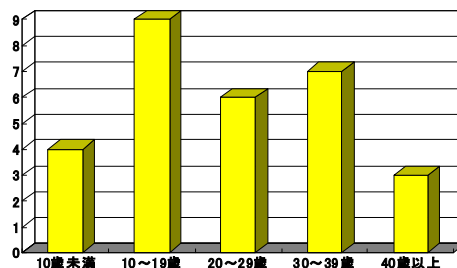
第二種感染症指定医療機関であることから、専用診察室が別館にあり、そちらに発熱外来を設置しました。建物が別のため、一般の患者さんと玄関を分けることはできましたが、結核患者さんの診察と重ならないように時間調整をする必要がありました。来院時は、患者さんには別館の玄関前まで車をつけ、患者用玄関から入っていただいています。発熱外来の運営にあたっては、一般患者さんからの分離が重要であり、発熱相談センターを介した受診や自家用車による受診が重要と思われました。

次に、この1ヶ月半の当院における発熱外来の状況ですが、5月24日現在、当院での発熱外来受診者数は29名となっています。内分けは、男性17名、女性12名。年齢は10代が最も多く、次いで、30代、20代となっています。

発熱外来受診状況

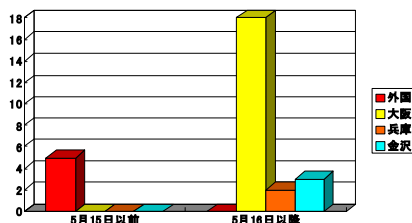
(平成21年4月29日～5月24日)
総数: 29名
男性: 17名
女性: 12名

受診患者の年齢分布



発熱患者の旅行先も、神戸での国内発生後は、海外からの渡航歴の方はおらず、すべて国内旅行関係の方でした。受診時の症状としては、37度以上の発熱が21名(72%)、咳などの呼吸器症状が22名(76%)となっています。

国内発症前後における旅行先



受診時の症状

- ・発熱
38度以上: 7名(24%)
37度台: 14名(48%)
37度未満: 8名(28%)
- ・呼吸器症状
22名(76%)
- ・消化器症状
0名

この方の中には、発熱外来受診基準を満たさない患者さんが3割弱みられ、今後の啓蒙活動が必要と思われれます。



地域連携室からのお知らせ

■ 新任医師紹介

平成21年7月1日より、脳神経外科に新任医師1名が着任しました。



脳神経外科
廣田 雄一
ヒロタ ユイチ

曜日	午前	午後
月	池田	〔検査〕
火	金大派遣	〔手術〕
水	池田	〔検査〕
木	廣田	〔手術〕
金	池田	〔検査〕

— 脳神経外科 外来診療体制 —

■ 地域連携室 職員紹介

『スクラム』VOL.19（2009.4発行）では、写真のみの掲載となりました。今回改めて、職員の紹介をいたします。

室長	高桑 浩	（内科医長）
副室長	西川 和昭	（医事室長）
	今井 明美	（退院支援看護師・担当看護部長）
看護師	坂本 和美	（看護師長）
	福森 かずみ	
福祉相談員	津田 勝	
	今井 進	
事務	池川 善子	
	高木 有希子	
	北方 真由美	
	直江 久美子	（入院センター担当）

本年度も地域連携室は、職員一同さらなる活動を目指し、地域により良い医療・継続的なケアの提供ができる連携をすすめていきます。

今後とも、よろしくお願いいたします

金沢市立病院 地域連携室

TEL:245-2626 FAX:245-2693

お問い合わせ・ご予約などお気軽にご連絡ください。

<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/36001/byouin/index.jsp>

